「NPO法人設立資金助成」贈呈式が全国各地で開催される！

平成１４年度の「ＮＰＯ法人設立資金助成（社会福祉助成）」は、４２都道府県１００団体への助成が決定しました。
今年は損保ジャパンの名のもと、初めての贈呈となるため環境財団の同趣旨の助成と足並みをそろえて実施し、その贈呈式は１０月から全国３９の損保ジャパンの部支店により一斉に開催されています。お忙しい中、ご協力いただいた部支店の皆様には、損保ジャパングループとしての社会貢献の一翼を担っていただき有難うございました。全国各地で新聞紙上などに掲載された下表の贈呈式の模様を中心に５ページ以降で特集しています。（12/11 現在報告分）



首都圏地区贈呈式
（H14.10.29 於損保ジャパン本社ビル）



＜平成１４年度　「ＮＰＯ法人設立資金助成贈呈式（H14.12/11 報告分まで）＞

NO	開催部支店	掲載紙	ﾍﾟｰｼﾞ	NO	開催部支店	掲載紙	ﾍﾟｰｼﾞ
1	札幌中央支店	贈呈式写真	5	17	富山支店	富山新聞	12
2	東北海道支店	十勝毎日新聞	5	18	福井支店	福井新聞	12
3	岩手支店	岩手日報	6	19	滋賀支店	毎日新聞	13
4	秋田支店	秋田魁新報	6	20	兵庫業務部	神戸新聞	13
5	山形支店	山形新聞	7	21	山口支店	山口新聞	14
6	仙台支店	河北新報	7	22	鳥取支店	日本海新聞	14
7	福島支店	福島民報	7	23	島根支店	山陰中央新報	14
8	茨城支店	茨城新聞	8	24	高松支店	四国新聞	15
9	茨城南支店	茨城新聞	8	25	高知支店	高知新聞	15
10	栃木支店	下野新聞	8	26	徳島支店	徳島新聞	15
11	松本支店	長野日報	9	27	福岡中央支店	西日本新聞	16
12	長野支店	信濃毎日新聞	9	28	佐賀支店	佐賀新聞	16
13	静岡支店	静岡新聞	10	29	沖縄支店	沖縄タイムズ	16
14	東静岡支店	静岡新聞	10	30	熊本支店	熊本日日新聞	17
15	岐阜支店	岐阜新聞	11	31	宮崎支店	宮崎日日新聞	17
16	金沢支店	北国新聞	11	32	鹿児島支店	大島新聞	18

（注：マスコミ・写真の掲載のある部支店のみ掲載しております。）

寄付金の御礼

●小林　良一様から、ホールインワン達成記念に寄付を頂きました。
ありがとうございました。



記念財団からのお知らせ

★ 記念財団って何をしているの？ ★

（株）損害保険ジャパンが基本財産を拠出している財団は、「損保ジャパン記念財団」「損保ジャパン美術財団」「損保ジャパン環境財団」と３つありますが、それぞれの事業を監督する主務官庁が異なることから別々に設立されています。

（記念財団：厚生労働省、美術財団：文部科学省、環境財団：環境省）

「美術財団と環境財団は名前から財団の内容が判るけど、記念財団って何をやっているのかよく判らない」との声がたまに社内外から聞こえてきます。本号では記念財団を少しでもご理解いただけるよう最終ページに「事業の概要」を一表にして添付しましたのでご参照下さい。（記念とは：新宿本社ビル完成〔７６年〕三好元社長の叙勲〔７７〕創業９０周年〔７８〕）この節目の１９７７年に設立された記念財団は今年で２６年目を迎えますが、その事業を一言で言えば「福祉と保険」とご理解ください。一表掲載の事業を通し、今後増加していく障害者や高齢者にとってますます重要になってくる福祉や保険の分野を中心に、損害保険ジャパングループとしての社会貢献の一翼を担っていくことを第一の目的としています。また、記念財団が長年にわたり構築してまいりました、財団役員を始め評議員・選考委員・審査委員の皆さま、多くの関係団体との広範なネットワークの一層の拡大も重要な役割となっています。

我が国には、主要な助成財団が約６００法人程設立されており、科学技術や教育、福祉等の各方面にわたる助成活動を行い、その助成総額は年間約５００億円と言われています。その中にあって当記念財団は、資産規模や事業規模において決して大きな財団ではありませんが、事業分野においては先駆的・ユニークで特徴ある活動が広く知られた財団となっています。今後とも当財団へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

★ 財団事務所を移転しました ★

１２月１６日より、下記の通り財団事務所を移転いたしました。
お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。笑顔でお待ちしています。



＜新住所＞

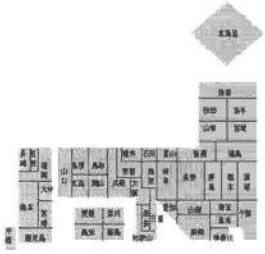
〒160-0022
東京都新宿区新宿３－１－１６
損保ジャパン新宿東ビル１１階
電　話：０３－５９１９－０７１１
ＦＡＸ：０３－５９１９－０７１０

＜交通のご案内＞

■ＪＲ新宿駅南口・東口より徒歩５分
■営団地下鉄丸の内線・新宿３丁目駅A1出口至近
■都営地下鉄新宿線　・新宿３丁目駅A1出口至近

＜平成１４年度ＮＰＯ法人設立資金助成＞

全国贈呈式特集



NO.1　札幌中央支店　　贈呈式写真　　(10/25.29)



エルム運営委員会　様



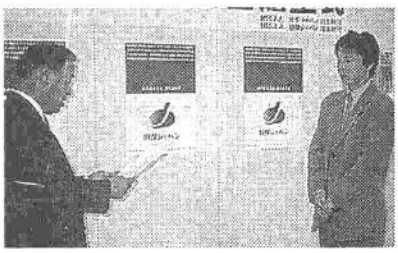
ホップ障害者地域生活支援センター　様

NO.2　東北海道支店　　十勝毎日新聞　　(10/13)

その他

◆財団法人損保ジャパン記念財団（有吉孝一理事長）がＮＰＯ法人設立資金援助

このほど、損保ジャパン東北海道支店帯広支社（市内東1南10）で贈呈式が行われ、訪問看護などに取り組む鹿追町の地域生活支援センター「かしわのもり」（松山雅一代表）に30万円が贈呈された＝写真。



十勝の団体が同財団から助成金を受けたのは初めて。同財団と財団法人損保ジャパン環境財団の「ＮＰＯ法人設立資金助成」は4年目を迎え、今年は全国１１５の団体に各30万円の助成を行っている。

損保ジャパンの千葉隹史東北海道支店長、塚井敏昭帯広支社長らが出席し、松山代表に目録を手渡した。松山代表は「すでに業績のあるＮＰＯ法人ではなく、これから立ち上げを目指す団体に援助が出るのは本当にありがたい」と感謝していた。

NO.3　岩手支店　　岩手日報(県南)　(10/11)

NPO「ふくとぴあ水沢」に30万円寄付
損保ジャパン財団

財団法人損保ジャパン記念財団（有吉孝一理事長）は八日、民間非営利団体（NPO）法人・ふくとぴあ水沢（及川清隆理事長）に助成金三十万円を贈った。



〔横田龍夫常務執行役員から助成金の目録を受け取る伊達真司理事㊨〕

贈呈式は水沢市佐倉河のホテルで行われ、横田龍夫損保ジャパン常務執行役員は「多くの応募から選ばせていただいた。積極的に事業を展開してください」と伊達真司ふくとぴあ水沢理事に目録を手渡した。

ふくとぴあ水沢は複数の障害者ボランティアが集まって結成。七月にNPO法人の登記を終え、今月から同市東町に地域生活支援センター水沢を開設した。

活動は、障害者ボランティアを支援、育成しネットワークを構築する事業と、精神障害者に対する食事、通院などの生活支援の二本立て。胆江地区を中心に活動を展開する。

岩手日報（沿革）　(10/12)

宮古のNPOに助成金贈る
損保ジャパン財団

財団法人損保ジャパン記念財団（有吉孝一理事長）は十日、二〇〇二年度の民間非営利団体（NPO）法人設立資金助成金として、宮古市保久田の宮古地区いきいきワーキングセンター（及川新理事長）に三十万円を贈った。



〔森合康和支店長から助成決定通知書を受ける赤沼孝裕副理事長㊨〕

贈呈式は同市保久田の市中央公民館分館で行われ、関係者十人が出席。森合康和損害保険ジャパン岩手支店長は「活発な活動を通し、地域の社会福祉向上へ貢献されることを期待する」とあいさつし、赤沼孝裕副理事長に助成決定通知書を手渡した。

赤沼副理事長は「障害児を含め、障害者の社会自立支援へ有効に活用したい」と意欲を述べた。

同センターは、今年八月に法人認証を取得。障害者の社会参加や自立を目指し、就業支援事業などを展開している。

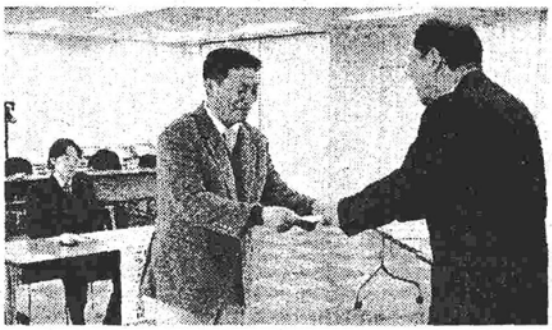
NO.4　秋田支店　　秋田魁新報　　(10/29)

◆損保ジャパン記念財団が助成　28日、秋田市のNPOアイアンドユウ（保坂敦子代表理事）に設立資金30万円。同NPOは、障害者や高齢者を対象にヘルパーを派遣する。同財団は、社会貢献として毎年、全国100団体に助成している。

NO.5　山形支店　　山形新聞　　(10/31)

NPO法人の設立支援

損保ジャパン財団 県内2団体に30万円



県内2団体にNPO設立の助成金が贈られた

損保ジャパン記念財団（有吉孝一理事長）と損保ジャパン環境財団（後藤康男理事長）は三十日、NPO（民間非営利団体）法人設立を目指す県内二つの団体に助成金を贈呈した。

助成先は、知的障害者らの社会復帰を目指す、あずまうこぎの会（米沢市、情野順治代表）と、庄内一円の環境保全活動を支援する、環境協働組織・グランドワーク庄内（鶴岡市、風間眞一代表）の二つ。山形市松波一丁目の損害保険ジャパン山形支店で贈呈式が行われ、飯田二郎支店長から両団体の代表者に助成金三十万円を贈った。

同記念財団は社会福祉活動を、同環境財団は地球環境保全活動をそれぞれ推進する目的で、一九九九年度からNPO法人設立資金を助成。今回は全国で、前者が応募数二百八十五件から百団体、後者が同四十四件から十五団体に総額三千四百五十万円を贈呈する。

NO.6　仙台支店　　河北新報　　(10/24)

☆二つのNPOを助成



損害保険ジャパン仙台支店はこのほど、障害者や高齢者を支援する仙台市内の二つの民間団体に対し、特定非営利活動法人（NPO法人）の設立資金として三十万円を助成した。篠崎暁支店長（五二）＝写真＝は「利益の一部を社会に還元するのは、地域で営業する企業の役割」と語る。

同社は今年七月、安田火災海上保険と日産火災海上保険が合併して誕生した。福祉団体やNPOなどへの助成は安田火災が合併前から続けている。「新会社の下でもこれまで同様、社会貢献活動に力を入れていきたい」と意気込む。

NO.7　福島支店　　福島民報　　(11/7)

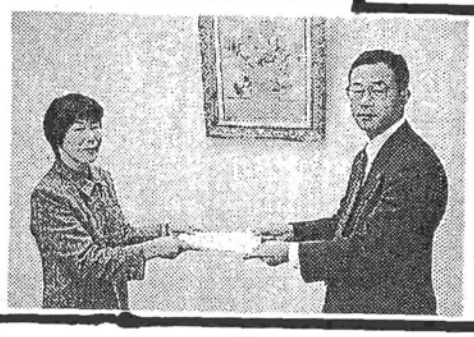
こころネットワークに助成金

損保ジャパン記念財団

財団法人「損保ジャパン記念財団」は六日、精神障害者の生活支援を行う県南地方のNPO法人「こころネットワーク県南」に助成金三十万円を贈った。

社会福祉への貢献活動として助成を続けており、こころネットワークは今年度の贈呈先として全国の九十九施設とともに選ばれた。福島市の損保ジャパン福島支店で贈呈式を行い、島文夫支店長が熊田芳江副理事に助成決定通知を手渡した。

今年一月に設立されたこころネットワーク県南は、精神障害者の地域生活支援センターの設立準備を進めている。



島支店長から通知を受け取る熊田副理事（左）

損保ジャパン記念財団

NPOに助成金

ポランの広場へ30万円





秋元雅之支店長から目録を受け取る小薗江晴美代表＝つくば市竹園

損保ジャパン記念財団（有吉孝一理事長）の二〇〇二年度社会福祉助成金贈呈式が二十九日、つくば市竹園の損害保険ジャパン茨城南支店で行われ、NPO法人「ポランの広場」（小薗江晴美代表）に助成金三十万円の目録が贈られた。

同助成事業は、前身の安田火災記念財団が一九七七年に設立されて以降、全国の福祉団体を対象に実施。九九年からは社会福祉分野でNPO法人設立を目指す団体を対象に助成事業を展開している。

本年度は全国二百八十五団体から助成の申し込みがあり、百団体への助成が決まった。本県ではポランの広場と「スペース空」（日立市、三浦剛代表）の二団体が助成団体に選ばれた。

ポランの広場は、養護学校に通う主に知的障害のある子どもたちの親たちが、学童保育活動を実施するため九一年四月に設立。保育だけでなく、心身の発達を促進するための水泳療法や太鼓を使っての音楽療法なども実施している。この六月に任意団体からNPO法人化した。

贈呈式では、秋元雅之茨城南支店長から小薗江代表に助成金の目録が手渡された。小薗江代表は「大変ありがたい。NPO法人化に伴う事務のOA化に使いたい」と感謝していた。

全国ニュース

県内のNPO 2団体を助成

損保ジャパン

財団法人損保ジャパン記念財団と損保ジャパン環境財団は三十日、県内の民間非営利団体（NPO）法人二団体にNPO法人設立資金として各三十万円を助成した。

同財団は一九七七年から毎年、全国の福祉団体などに対する助成を行ってきた。本年度は真岡市の障害者支援団体「なずなの会」と栃木市の高齢者福祉・環境保護団体「県自然環境保全センター」を含む、全国百十五団体が選ばれた。

この日は宇都宮市本町一丁目の損保ジャパン栃木支店で贈呈式が行われ、光内俊雄支店長が両団体の代表者に助成金を手渡した。なずなの会の渡辺美恵子会長は「障害のある人たちを地域で支えていこうという機運は高まっている。活動を通し、その姿勢を見せていかなくては」と話した。自然環境保全センターの荒川恒昭専務理事は「助成金を活用して、広報面に力を入れていきたい」と抱負を語った。



贈呈式に臨んだ荒川専務理事（右から2人目）、渡辺会長（同3人目）ら

NO.11　松本支店　　長野日報　　(11/1)

NPO設立資金に

市身障協に助成金30万円

損保ジャパン記念財団

岡谷市身体障害者協会（堀内一光会長）は三十日、財団法人損保ジャパン記念財団（本部・東京）からNPO法人設立資金として助成金三十万円を受けた。

同協会は障害者の自立支援のボランティアなどに取り組んでおり、八日に県へ正式にNPO法人設立の認証申請を行った。助成金は申請費用にあてるほか、デイサービスでのリハビリに使用するハンドベルの購入に役立てる予定。来年一月ころからNPO法人として身障者デイサービス事業を中心に活動していく。

贈呈式は諏訪市諏訪の損害保険ジャパン諏訪支社で行われ、堀内会長は「企業に協力してもらい、行政の行き届かないことに取り組んでいきたい」と、今後の活動に意欲を示していた。



助成金を受け取る堀内会長ら

酒は静かに清く
小野酒造醸

同財団による助成金事業は地域福祉の向上に役立て、NPO法人の設立を支援するのがねらい。今年度も含め過去三年間に全国で四百の福祉団体に一億二千万円が贈られている。

NO.12　長野支店　　信濃毎日新聞　　(10/24)

坂城のNPOに

法人助成金贈る

損保ジャパン記念財団

坂城町平沢で、障害者とリンゴ栽培やみそ造りをしているNPO法人「やまびこ舎」（吉田超代表）に二十二日、損保ジャパン記念財団からNPO法人設立資金三十万円が贈られた。


損保ジャパン記念財団の助成決定通知を受け取る吉田代表（左）

損害保険ジャパン長野支店の入雅樹支店長から決定通知を受け取った吉田代表は、「火災ですべてを無くして五年前に再出発したが、今日をきっかけに新たな歩みをしたい」と話した。

やまびこ舎は一九八五（昭和六十）年設立。九三年に入所者一人が焼死する火災があった。現在の会員は賛助会員を含め百七十五人。十五日に県からNPO法人の認証を得た。

同財団のNPO助成は四年目。本年度、県内では松本市のケアタウン浅間温泉、岡谷市身体障害者協会も助成を受けた。